

2025年度 事業報告書



一般社団法人 全日本囲碁連合

1. 公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）への登録、及び事業協力

2025年11月13日に日本オリンピック委員会（JOC）に承認団体として加盟をすることができた。今後、国際的に日本の囲碁界を代表する団体として、活動の幅を広げ、またOCAやIMSA主催の国際総合競技大会での実績を積み、中長期的な目標としてJOC準加盟、正加盟を目指して活動を継続する。また、国際囲碁連盟（IGF）や各国・地域の棋院・囲碁団体と連携して、アジアオリンピック評議会（OCA）が開催を計画するeスポーツとマインドスポーツの国際競技大会への囲碁・ペア碁競技採用の要請を進める。この活動が今後開催されるOCA主催大会への参加、囲碁・ペア碁のオリンピックを含むIOC主催大会への将来的な正式競技採用の可能性を見据え、粘り強く推進する。

2. 代表選手及び役員の選定及び派遣

今年度は、当法人から選手及び役員を派遣する大会は開催されなかった。今後、JOCを通じて選手を派遣する国際総合競技大会、IMSA主催のマインドスポーツの国際大会が開催されることになった際には、当法人から派遣を行う。

3. 選手の選考基準の策定

当法人から派遣する選手の選考基準を明確化するため選手選考規程を2021年6月28日に実施した理事会で審議し承認した。

この選手選考規程に基づき、第19回アジア競技大会囲碁競技に派遣する選手の選考基準を策定し、2023年1月11日に開催した役員会にて審議、承認を行い、この基準をもって2023年1月から2月に選手選考を実施した。

今後も当法人から選手・役員を派遣することになった場合に、選手選考規程を元に、選考基準を策定して、その基準に基づいて選考・派遣を進めていく。

4. 参加国による競技ルールを取決め、調整及び国際会議出席者の推選

今年度は国際マインドスポーツ協会（IMSA）が主催する国際大会が実施されなかったため、競技ルールの取り決め等の打ち合わせは実施しなかった。

なお、ここ数年、国際囲碁連盟（IGF）及び、プロ棋士が参加する国際棋戦において、中国より統一ルールを策定する動きが出ており、国際的に日本囲碁界を代表する統括団体として、世界における囲碁の基本ルールが日本ルールから変更されないように、今後の状況を注視し、日本ルールを採用する関係国と連携して対応していく。

5. 選手の育成、指導、強化

5.1 2025年度 選手強化合宿

将来のOCA主催の国際総合競技大会やIMSA主催のマインドスポーツ大会に向け、日本囲碁界の男女トッププロ棋士、今後活躍が期待される若手棋士を対象として、強化合宿を実施した。

昨年も実施した他競技団体との交流やメンタルトレーニングの講習に加え、フィジカルトレーニングの講習など新しいメニューを導入して、参加した選手からは有意義な時間だったなどの感想をもらい、大変好評であった、来年度以降も継続して実施していきたい。

【 開催日 】

2026年3月5日（木）～9日（月）

【 実施会場 】

味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）WESTおよびEAST
国立スポーツ科学センター（JISS）

【 参加者：計25名 】

囲碁ナショナルチーム（碁・Goジャパン）に参加する男女トップ棋士、若手棋士を中心とした棋士、監督・コーチ33名と当法人役職員7名



参加者の記念撮影

● 参加棋士（男性棋士） ※タイトル・段位は合宿実施時のもの



一力遼棋聖



井山裕太碁聖



芝野虎丸十段



関航太郎九段



伊田篤史九段



本木克弥九段



富士田明彦八段



横塚力七段



佐田篤史七段



広瀬優一七段



大竹優七段



福岡航太郎七段



酒井佑規七段



桑原樹七段



三浦太郎五段



表悠斗四段



大川拓也四段



重川明司二段



田中健太郎初段



國松聡初段



吉田透真初段

● 参加棋士（女性棋士） ※タイトル・段位は合宿実施時のもの



藤沢里菜
女流本因坊



上野愛咲美
女流名人



上野梨紗
扇興杯



牛蒡子四段



加藤千笑四段



柳原咲輝二段



高山希々花初段



小幡みのり初段

● ナショナルチーム監督・コーチ



高尾紳路監督



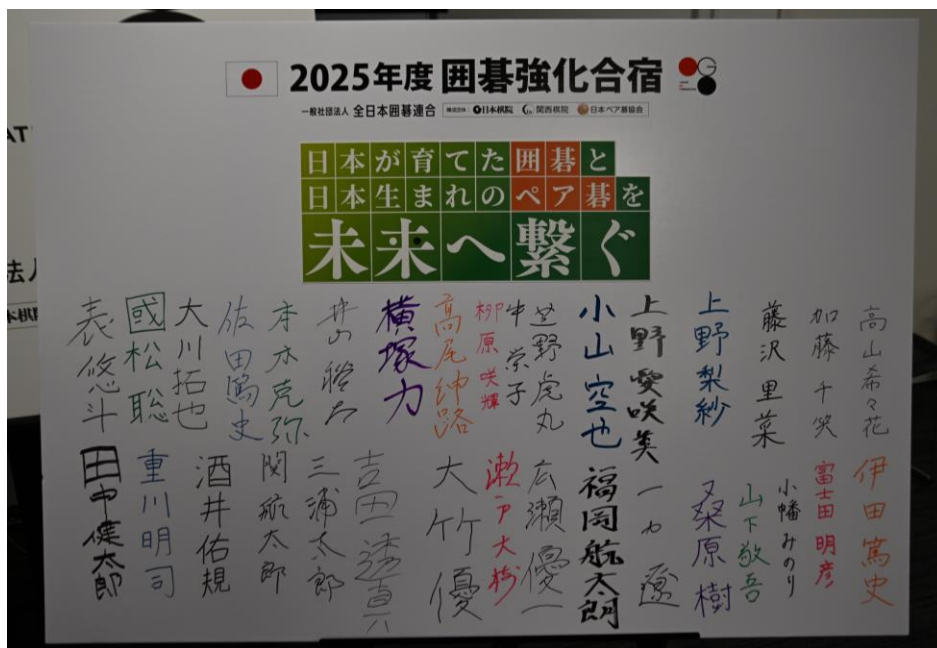
山下敬吾コーチ



瀬戸大樹コーチ



小山空也コーチ



● 強化対局



● 3月7日（土）メンタルトレーニング講習

近藤みどり氏（JISS スポーツ医学研究部門 心理グループ）
「挑戦と回避—安定したパフォーマンスを発揮するために—」



● 3月8日（日）フィジカルトレーニング講習

田村沙織氏（Jissスポーツ医学研究部門コンディショニングチーム）

「リラックス効果、身体機能の活性化を目的としたトレーニング、ストレッチ」



● 3月9日（月）特別講習

太田雄貴氏（フェンシング銀メダリスト・Joc専務理事）
「継続は力なり」



6. アンチドーピングへの教育と啓発

6.1 JADA主催のフォーラム、教育会議への出席

JADA主催のアンチドーピングに関するフォーラムや教育会議に事務局職員が出席し、アンチドーピングに関する情報収集と学習を実施した。

7. その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

7.1 クラウドファンディングの実施

法人の活動資金の確保ならびに安定的な運営を行うため、個人向けのクラウドファンディングを実施した。

2025年11月1日より2か月間実施し、111名の方々から目標金額（555万円）を上回って1,159,500円もの支援をいただき、下記の用途に充当することができた。

- ① 強化合宿の費用
- ② 全日本囲碁連合の法人運営費用
- ③ 将来の全日本囲碁連合から選手を派遣する際の費用



日本が育てた囲碁と
日本生まれのペア碁を
未来へ繋ぐ

世界で活躍する棋士の強化育成・大会派遣にご支援を！

一般社団法人 全日本囲碁連合

構成団体：  日本棋院  関西棋院  日本ペア碁協会

7.2 国際囲碁連盟（IGF）への加盟と本部移転

① IGFへの団体加盟の承認

2025年5月にカナダ・バンクーバーで開催された「第45回世界アマチュア囲碁選手権戦」の際に実施IGF理事会とその後の総会にて、当法人のIGFへの団体加盟が承認された。世界の囲碁界における日本の地位低下を防ぎ、向上を図ることを目的として、積極的に当法人からのIGFへの運営協力を進めていきたい。

② IOCレコグニション獲得に向けたIGF本部の移転について

当法人は、過去2回のアジア競技大会、仁川で行われたアジアインドア・マーシャルアーツゲームスへの選手派遣など、囲碁・ペア碁においてオリンピック関連事業に関わる業務を中心に、日本囲碁界を代表する公式組織としての役割を担っている。

IGFは、世界の囲碁を統括する国際競技連盟として、将来的な国際オリンピック委員会（IOC）のレコグニション獲得を重要な目標として掲げている。

IGFは、IOCのレコグニション獲得を目指す競技団体の集合体である独立スポーツ組織同盟（AIMS）に現在加盟しているが、今後はその次の段階として、IOC承認国際競技連盟連合（ARISF）への加盟を含め、IOCレコグニションに向けた取り組みを、より積極的に推進していく必要がある。

そのためにはIGF本部が所在する日本においても、日本オリンピック委員会（JOC）やアジア・オリンピック評議会（OCA）など、オリンピック関連機関との連携を円滑に行える体制が望ましいと考えられ、IGF設立以来、長年本部を担ってきた日本棋院と協議を重ねた結果、JOC加盟団体である全日本囲碁連合に本部を移すことが、こうした国際的な戦略を進めるうえでも、大きな意義があるという結論を得た。

その方針に従い、2026年2月末に開催されたIGF理事会において、日本棋院から全日本囲碁連合にIGFの本部を移転することについて決議を行い、承認された。

今後は、当法人の重要な活動の1つとしてIGFの本部運営に取り組み、IOCのレコグニション獲得に向けて、これまで任意団体として活動を行ってきたIGFの法人化に向けた準備を進めて行く予定。

7.3 当法人構成団体の事業に対する協力

社員である日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会の各団体が主催する以下の大会・イベントに対して協力を行った。

- | | | |
|----------------------|----------------|----|
| ・ 第45回世界アマチュア囲碁選手権戦 | 2025年5月16日～23日 | 開催 |
| ・ ペア碁ワールドフェスティバル2025 | 2025年8月8日～10日 | 開催 |

7.4 定期会合の実施

日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会から選出された当法人の理事・監事が集まり、定期会合を実施した。囲碁・ペア碁における各団体の事業や国内外の課題に関して、活発な意見交換を行った。

8. 2025年度活動の総括

今年度は、長年の悲願であった日本オリンピック委員会（JOC）に承認団体として加盟をすることができた。「囲碁」「ペア碁」が日本国内においてマインドスポーツとして正式に認知される契機となり、今後の当法人に活動に大きな広がり可能性が出てきたといえ、これまで以上に囲碁・ペア碁普及に邁進したい。

また今年度は、5月に囲碁の国際統括団体である国際囲碁連盟（IGF）に団体会員として加盟し、2月末にはIGF理事会の承認を受け、IGFの本部機能を担うこととなった。

世界における日本の囲碁（GO）の地位向上を図り、囲碁界の悲願であるIOCのレコグニション獲得に向けて、世界の囲碁界をリードして、精力的に法人化等の課題に取り組んでいきたい。

また、2026年に愛知・名古屋で行われる「第20回アジア競技大会」においては、残念ながら囲碁・ペア碁の競技採用はかなわなかったが、アジア大会期間中に、「Aichi-Nagoya2026公認文化プログラム」として「ペア碁ワールドフェスティバル2026」を名古屋市内で開催することになった。

今回の名古屋での公認文化プログラムとして開催する国際大会を、将来のOCA主催の国際大会やマインドスポーツ大会への選手・役員の派遣に繋げていけるように、関係各所に「囲碁」「ペア碁」の魅力を積極的に発信していきたい。

また、引き続き必要な諸規程の整備を行うとともに、当法人の安定的な活動のために、運営資金の調達に力を入れていきたい。

9. 来年度に向けた課題

- 9.1 安定した法人運営のための多角的な運営資金の調達
- 9.2 国際囲碁連盟（IGF）の本部機能の移転とIOCレコグニション獲得に向けたIGF法人化に向けた手続き
- 9.3 アジアオリンピック評議会（OCA）主催の国際大会への囲碁・ペア碁の正式種目採用の働きかけ
- 9.4 囲碁・ペア碁の国際オリンピック委員会（IOC）レコグニション獲得に向けた連携強化